

様式第2（第9条関係）

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和8年 5月20日

犬 山 市 議 会
議 長 大 澤 秀 教 様

議員名 鈴木 伸太郎

下記のとおり、展示会の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和8年 5月 14日(木) ～ 5月 15日(金)
(2) 場 所	①全国市町村国際文化研修所 ②インテックス大阪
(3) 形 態	会派 () : その他 (鈴木のみ)
(4) 内 容	① 研修「社会保障・社会福祉」 ② 展示会「猛暑テック」 報告書別紙
(5) 成果・提言	報告書別紙



出張報告書 令和8年5月14日(木)～5月15日(金)

- ① 研修「社会保障・社会福祉」 大津市 全国市町村国際文化研修所
- ② 展示会「猛暑テック」 大阪市 インテックス大阪

① 研修「社会保障・社会福祉」

全国市町村国際文化研修所（JIAM）での研修に参加。全国から約110人が参加。以前にも同タイトルの研修を受講したが、そのころは認知症や引きこもりに対する事業についての講義が多かったが、今回は、重層的支援体制についての内容が主であった。個人的には、多様な社会福祉の課題を総合的に学びたかったが、短い時間でそれは無理だった。

○地域共生社会の課題と展望 同志社大学 永田師

- ・近年の社会変動により、包括的支援体制が求められている。家族・地域社会・安定した雇用とうまく結びつかない孤立状態にある人の課題が顕在化。
- ・社会的に孤立していることで深刻になる。世帯に課題が複合していたり、制度のはざまの場合、特定の機関だけでは対応できない。
- ・孤立状態にある人のニーズ特性
 - ・支援ニーズが表明できない
 - ・多様化、深刻化、複雑化
 - ・「受援力」の弱さ
- ・役所の縦割りを越えた包括的な支援体制の構築
 - ・分野横断的な福祉+地域の多様な取り組み
- ・重層的支援体制整備事業の位置づけ
 - ・包括的相談支援事業
 - ・参加支援事業
 - ・地域づくり事業
 - ・アウトリーチ等を通じた継続的支援事業
 - ・多機関協働事業
 - ・支援プラン作成事業
- ・肝心のポイント
 - ・支援の届かない「はざま」をどう埋めるか
 - ・体制づくり
 - ・縦割りの「制度」の枠だけで考えるのではなく、庁内・関係機関・地域社会の力を重ねる事。
 - ・行政や制度の縦割りに人を併せる福祉から、人に制度を併せる体制に変える施策と

これらに一体的に取り組む事業

事業。

- ・ポイント「越境」
- ・重層支援の本質は「重なるの体制整備」
- ・包括的な支援体制と重層事業の「新規性」
- ・事例・・・豊田市、鳥羽市、高島市
- ・押し付け合わない工夫
- ・社会福祉法改正の柱
 - ・包括的支援体制の更なる推進
 - ・民法改正を踏まえた社会福祉の体制整備
 - ・身寄りがない高齢者の支援
- ・成年後見制度の見直し
 - ・補助制度を軸とする再編
 - ・法定後見の終了・解任
- ・高齢者終身サポート事業
 - ・自治体の仕事として、相談窓口設置・ガイドライン作成・登録制度等
- ・仲間での支えあい（入退院支援・買い物支援・大掃除・弔いあい・施設訪問）
- ・多様なベストミックスを考える

○これからの包括的支援体制の整備と地方議員の役割

ニッセイ基礎研究所 三原師

- ・重層的支援体制の予算6割カット報道 → 国がしっかり対応する旨会見発表
- ・重層的支援体制整備事業の柱
 - ・相談支援
 - ・参加支援事業
 - ・地域づくり事業
- ・関係者との連携・地域ケア会議がカギ
- ・地域包括支援センターがしっかりしていないと重層的支援は無理。
- ・まちづくりのアプローチも重要
- ・生活支援コーディネーターの立場の明確化。
- ・地域福祉計画でも住民参加
- ・総合事業は「担い手」多様化
- ・ヤングケアラー支援でも連携

○犬山市への提言

重層的支援については、私の居住する楽田地区においては、徐々に進んでいるとみている。私の周りでは、地域密着型のイベント開催、子ども食堂開催、夏休みの

預かり&見守り、地域のコーヒースロン、買い物支援、朝市、動物とのふれあい等、多世代にわたる多くの仕掛けが展開されている。これを市域全体に拡げていきたい。

ただ、すべてがうまくいっているわけではない。引き続き先進事例、国の動向等を注視しつつ、柔軟に対応し、よりよい地域共生社会形成に向けたアクションを展開していきたい。

② 猛暑テック インテックス大阪

当初は予定していなかったが、インテックス大阪で、工場や屋外での作業者向けの暑さ対策関連の展示会が開催されている事を知り、JIAM 研修終了後に訪問し、情報収集を行った。市の業務での暑さ対策としては、高齢者のエアコン未使用等による熱中症、暑さをしのぐ冷房の効いた施設やショッピングセンターでの快適さ追求、土木・水道等屋外での作業が想定される職員への対策等が挙げられる。そのあたりの情報を集めた。

- ・体温上昇等、熱中症リスクをデータで検知するウェアラブル端末 → 高齢者は身に着けることを嫌がるか？
- ・室温等のモニタリングシステム・・・秦野市導入決定、体育館、給食室、運動場、特別教室の室温を計測、一括管理でチェック。
- ・ウォーターサーバーの活用・・・クーリングシェルターでの設置の他、災害時の備蓄水としても活用可能。

○犬山市への提言

猛暑が想定される夏、特に高齢者が少しでも快適に安全に過ごせるような製品はいくつかあった。すぐに導入とはいかないが、今後の新製品新サービスの充実化も見据え、情報収集を行い、行政に提案していきたい。

以上